

気胸センター

TOHOKU MEDICAL AND PHARMACEUTICAL UNIVERSITY HOSPITAL

○ 当センター開設に当たって

当科ではこれまでに外科領域だけでなく呼吸器疾患全般の診療にあたってきました。その中でも気胸については年間100例以上、過去9年間に約1,000例と全国屈指の治療実績があります。その豊富な治療経験と専門性を活かし、今回“気胸センター”を開設することに致しました。

当センターでは自然気胸の再発率の高さを考慮し、初回発症時より手術をお勧めしております。各部署と協力の下、入院後早期の手術が可能となっており、その結果、再発率の低減と早期社会復帰が実現しています。またほぼ全症例が鏡視下手術ですので、低侵襲性・整容性についても考慮した治療内容になっています。

気胸に関してお困りの際は遠慮なくご相談ください。

診療日:毎週月曜（ご連絡頂ければ、予約なしでも診療致します。）

お急ぎの場合は別の曜日でも対応致しますので、ご連絡ください。

東北医科薬科大学病院 呼吸器外科（気胸センター） TEL 022-259-1221 FAX 022-259-1232

○ 当センターでの治療疾患

❖ 原発性自然気胸

肺に基礎疾患を持たない、10代後半～20代の若い男性に多い。
肺尖部にできたブラ・ブレブ（肺嚢胞）の破裂が主な要因。

❖ 続発性自然気胸

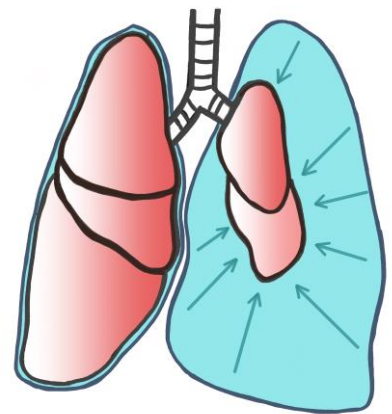
肺気腫、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、間質性肺炎などの呼吸器疾患を背景に起こる。高齢者男性に多い。

❖ 外傷性気胸

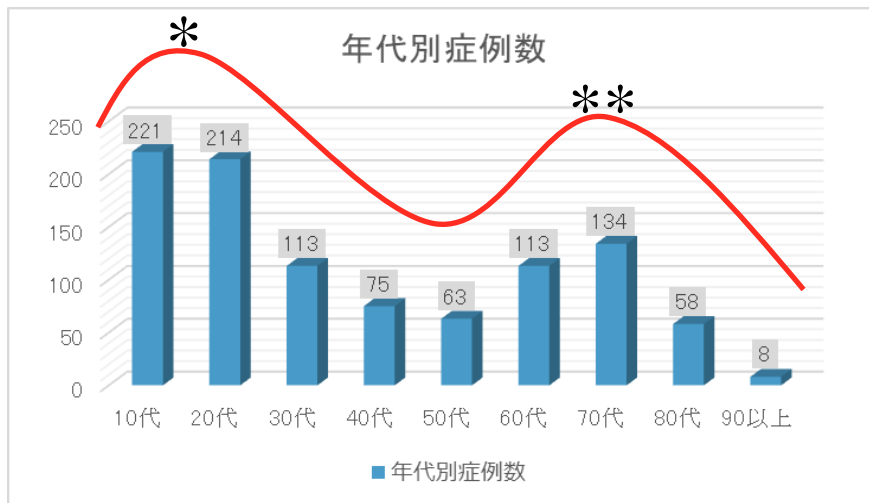
交通事故、転落、転倒などの外傷を契機に起こる気胸で、血胸を伴うこともある。

❖ 特殊な気胸

月経随伴性気胸、リンパ脈管筋腫症（LAM）、遺伝性嚢胞性肺疾患（Birt-Hogg-Dube症候群）。



2011年～2019年における当科での自然気胸手術症例



二峰性を示す好発年齢

*10～20代の若年者を中心とした
原発性自然気胸

**60～70代の高齢者を中心とした
続発性自然気胸



原発性自然気胸

再発予防が治療の中心

原発性自然気胸の治療で最も大事なことは再発予防です。本疾患は進学や就職を迎える年代に好発するのが特徴です。そのため再発予防は当然ながら、早期の社会復帰も重要となります。当センターでは初回発症時から積極的に手術（鏡視下）を行うことで、再発率の低減（再発率:約4%）と早期社会復帰（術後在院日数:平均2日）を実現しています。

続発性自然気胸

難治性の気漏遷延をどう止めるか、 集学的治療が必要

高齢男性に多い続発性気胸の多くは難治性で呼吸器以外の基礎疾患を持つ症例もあるため、手術だけでなく癒着療法や気管支鏡治療（EWSを用いた気管支充填術）の併用さらには呼吸リハビリなど集学的に治療を行います。

月経随伴性気胸やLAM、BHD症候群などの女性に多くみられる気胸は手術で診断をつけ、術後に他科と協力し全身治療を行います。

